



## 【教育目標】

心豊かに学び、たくましいジッダっ子の育成

令和元年(2019年)10月15日 NO.7

TEL 664-3437 FAX 664-2963

HP <http://jjs-japan.com>

E-mail [jjssa@jjs-japan.com](mailto:jjssa@jjs-japan.com)

## 「自分の頭で考え、自ら行動できる子」を目指して!

2学期も折り返し地点に差し掛かってきました。各学年・教科とも一段と学習に熱が入り、毎日一生懸命取り組んでいる子どもたち姿に、成長期の頼もしさを感じる日々です。

今回は、以前私が読んだ、京都大学アメリカンフットボール部監督の水野彌一さんと、兵庫県立西脇工業高校陸上部監督の渡辺公二さんの対談記事を紹介したいと思います。水野さんは、京大のアメリカンフットボール部を複数回に渡り優勝に導き、渡辺さんも駅伝で8回の全国制覇を果たすなど、お二人とも輝かしい功績を残された名監督です。

対談の中で、「勝つために何をすべきか」という問いに対して、方法論は違ってはいるものの、お二人とも「人間をつくることに尽きる」とおっしゃっています。日本一になるためにはさぞかし厳しい指導を行ってきたのではと思いきや、渡辺さんが心がけたことは、陸上の練習をきっちりと確実にこなすようにさせたことと、生活面の改善を図るために、次のことを徹底したそうです。

- ①挨拶をきちんとする・・・仲間、先生、通行人、通学中の駅員に至るまで「おはようございます。ありがとうございます。さようなら」といった挨拶をさせる
- ②掃除をきちんとする・・・教室、トイレ、校庭、部室、学校の周り、通学の駅前など
- ③校則はきちんと守る・・・生活の心得や申し合わせ事項も
- ④授業は耳で聞くのではなく目で聞け
- ⑤宿題・レポートは必ず提出する

高校生にとって当たり前のことと思われそうですが、これらのことができるようになることで、選手一人ひとりの自律につながるそうです。そしてまた、以下のことを大切にしたいそうです。

- ㊦試合に負けた時は励ます。ほめることで選手は育つ。
- ㊧苦言をためらうな。
- ㊨「ほめる、叱る、励ます」を繰り返す
- ㊩能力以上のことはさせない。余裕をもたせないと選手はつぶれる。
- ㊪駅伝は「たすき」をつなぐものではなく、「心」をつなぐものである。
- ㊫アマチュアは「和」で勝つ。プロは、勝てた時だけ「和」ができる。
- ㊬食事が大切。5大栄養素を必ず摂らせる。



日本一の選手を育てるには、指導者としての「理念と情熱」、選手の「自覚と自律」が必要なのだと思います。

## そこで、～「自分の力で学習できる子ども」の育成に向けて～

学校の勉強も同じことが言えます。特に小学校高学年から中学校においては、「やらされている勉強では、子どもは伸びない」のです。予習や復習の指示、宿題はこのページを、テスト対策にはこの問題集を、と教師側からの指示を待ち、言われたことだけを忠実にこなしていくだけの受け身的な学習では、本当の意味での実力は身につけません。このような指導により、子ども一人ひとりが自信を持ち、自らの力で勉強するようになれば問題はないのですが、残念ながら人に教えてもらうことが勉強だと思ってしまう、宿題だけで済ませてしまうことが多くあります。そうすると、難しい勉強になったとき伸びなくなってしまう。一般論ですが、日本の中学校で、定期テストは割と良い点数を取るけれども、実力テストになるとうまくいかないという生徒の場合は、この典型的な状況に陥っている可能性が高いといわれています。

ジッダ日本人学校では少人数による学習指導をきめ細やかに実践しています。一人ひとりの学習状況や特性を十分踏まえたうえで、個に応じた指導・支援に重点を置いた手厚い指導を心がけています。また、学び合いによる学習活動を効果的に取り入れたり、自分なりの考えを自分の言葉で説明できるような指導を重ねたりしています。そして、「自分の頭で考え、自ら行動できる子ども」を目指して、①すべてを教えずに自分の頭で考えさせ、②疑問や質問を大事にして分かるまで追求させ、③できなかったところを根気よく一つ一つなくしていき、④できたら大いに褒め、時には叱咤激励することを常に全職員で確認し合いながら、これからも熱意をもって指導実践を重ねて参りたいと思います。

### 第3回避難訓練(総領事館への緊急避難)実施<9月25日>

海外の日本人学校で最も大切なことは、安全に、そして安心して学校生活が送れることです。そこで本校でも様々な安全対策や避難訓練を実施しています。今回は、いざという時に、私たち日本人の安全を確保して下さる総領事館への避難訓練を行いました。

3台の車に分乗し、携帯電話で適宜連絡を取り合いながら総領事館まで避難しました。この訓練は、総領事館の高橋領事から計画段階よりご指導をいただき、「企画→実施→振り返り→改善」という一連の流れを大切に毎年実施しています。

今回は、まず初めに総領事館内の施設見学と防護用品の試着体験をさせていただき、その後宮本総領事ご夫妻との懇談を行い、総領事館の歴史や役割、仕事の具体的な内容など児童生徒の様々な質問に快く答えていただきました。ジッダ日本人学校の卒業生の中には、外交官を目指して見事その夢を実現させた人もいます。子ども達にとって、夢をもち、何事にも積極的に取り組む大切さを学ぶことができ、大変貴重な学習の場となりました。最後に、吉田シェフさん手作りの美味しい料理をお腹一杯になるほどたくさんいただき、至福のひと時を過ごさせていただきました。総領事館の皆様のご協力とご指導・ご支援に深く感謝申し上げます。このたびは誠にありがとうございました。



### 初めての企画、SAWACOへの「保護者合同全校学習会」実施!

9月30日に、SAWACO 淡水化工場の施設見学全校学習会を実施しました。昨年まで小学部3・4年生が行っていた学習会でしたが、今回は水道機工棟ルーストの中村靖男様のご高配により、小中学部全員による全校学習会としての実施が実現し、また、見学を希望される保護者の皆様にもご参加いただき「保護者合同全校学習会」として行いました。



当日は、中村様や現場担当責任者から大変わかりやすく説明していただきました。また、飲料水が海水から作られる工程や工夫改善を重ねていることなどをお聞きしたり、製造途上の水を比較して試飲したりするなど、施設見学と併せて大変貴重な体験をさせていただきました。雨がほとんど降らないため

川や湖がないここサウジアラビアにおける飲料水などの水の確保は、人々が生活したり生産・経済活動を営んだりしていくうえで、なくてはならない最も重要なことであることを改めて学ぶことができました。「水は生命の源、生活に絶対必要な資源、水なくて人類の存続と繁栄はあり得ない」などなど、改めて「水」のありがたさと重要性を再認識できた学び多き一日となりました。今回の「SAWACO 全校学習会」は、ジッダならではの特色ある教育活動の一つとして位置づけ、今後も継続して実施していきたいと考えています。お世話になりました中村様はじめ関係者の皆様に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

